桜中だより

坂戸市立桜中学校
校　長　石田　章浩
令和５年５月２日
【第２号】

校　訓	学校教育目標	生徒数　１年生　９２　名 ２年生１０１　名 ３年生１１２　名 全　校３０５　名
「自主・溌剌」	自ら学び心豊かでたくましい生徒の育成	

「いよいよ動き出す体育祭！（体育科の体育祭通信の言葉より）」

5月20日（土）体育祭が実施される予定である。今年は、ほとんど規制のない体育祭である。

さて、私の担任時代の1番の体育祭について、述べる。それは、K中学校で、3年生を担任していた時である。クラスには、陸上部に所属していた男子生徒がいた（以後Kとする）。専門は100m。当時、陸上競技専門の教員はいなかった。Kは、自分で本を読み（今のように簡単にインターネットや動画でという時代ではない）自分で学び、練習していた。性格的には穏やかであった。Kは、1年生の時から、県大会に出場して、上位入賞をしていた。3年生の時には、全国大会出場。大会は、広島県で行われ、私は応援に行った。当日は土砂降りの雨で、8月なのに、寒ささえ感じたのを覚えている。結果は、決勝に残り私の記憶では7位。当時K中は、9月に体育祭が行われた。クラスでは、総合優勝を目指して、体育委員を中心に作戦を立てる。まずは、K を「100m」に出場させる（どう考えても、全国入賞者に勝てる生徒はいないので、得点が入る）。次に、桜中でも行われる「花形リレー」「クラス全員リレー」に出場させる。生徒たちは、K をスターターにして、「先行逃げ切り」で1位を取る作戦を立てた。練習してみると、失敗。「ヨーイ　スタート」。K はとてもまじめ。全力で走る。2走へ。2走（M 君）転ぶ。というより前に押し倒される。決して M が悪いのではない。「なぜだ」そう思った。理由はこうだった。K のスピードが速くて、2走の助走に合わないのである。つまり、追突したのだった。これはきっと、経験者しかわからないと思う。その結果、Kはアンカーで走ることになった（Kは優しいので、バトンをもらう時も、ほとんど走らなかった）。本番では、「当然」と言いたいが、スポーツの世界アクシデントはつきものである。2走から3走で、バトンパスがうまくいかず、バトンを落とした。結果は言うま

でもない。

クラス全員リレー。K はアンカー（理由は上述のとおり）。このクラスは、男女とも運動能力が高い生徒がいた。生徒たちは、K のところまでは、接戦でもいいから、トップに近い位置で渡そうとクラスで話していたと、私は後から生徒から聞いた。「位置について　ヨーイ　スタート」。5クラス全ての生徒が全力。スターターからほとんどトップ。こうなると走るのが苦手な生徒達は、とにかく転ばないように必死だったと言っていた。K にバトンが渡る。K は、「走る」というより、「跳んで」全国出場の走りを見せる。私は放送担当だったので「これが全国の走り」と実況していた（当時の学級通信に書いてあった）。体育祭後、K は「国体」に参加する。だから実は「ケガをしないように」と私は思っていた。ゴールした後すぐに、K の所へ。「ケガはないか」と私は聞いた。普段大きな声を出すことがない K が、「大丈夫です。皆が、1位で持ってきてくれて嬉しかった。だから全力で走った」と言った。K の「皆のために」という気持ちが何より嬉しかった。K には「ケガをしたら国体に出られないかも」なんて不純な心はなかった（不純な心は私だけ）。その気持ちが生徒たちに伝わった。生徒はKの所に駆け寄り大騒ぎ。恐い体育の先生に怒鳴られ、生徒たちは、一目散に退散。結果発表。総合優勝はできなかった。女子の体育委員がその場で泣き崩れた（この生徒は今体育の教員）。

私の思い出話はここまで。今年の体育祭練習が本格的に始まる。「縦割り」がある（上記の時代、縦割り種目はなかった）。上級生は、下級生を上手にリードしていってほしい。1年生は、まだ入学して、1か月も経っていない。そのことを理解した上で、「ていねいに」教えて、導いてほしい。特に、3年生はリーダーシップを発揮して「好ましい集団（チーム）」を作ってほしい。集団（チーム）で行うと、どうしても「意識」の差がでてくる。「なぜできないのか」「何でやらないの」という不満が出てくる。こうなると、競技どころではない。解決するためには「コミュニケーション」だと思う。お互いが、思いを語り、お互いができる範囲内で、努力して競技に臨んでいくことを確認することだ。そして、同じ方向を向いて、行動することだ。これが「大人の対応」。自立した大人になるための「学び」。やるなら、気分良くやりたいではないか。その結果、うまくいかなくても満足はできる。私の苦い経験でもあるが、ある時、ギクシャクしたため、結果は最低。その後も「ギクシャク」「モヤモヤ」したまま終わってしまったことがあった。ずっと気分がよくない。どうか、互いが良かったと思えるように、生徒諸君。お互い「和やかに話し合い「譲り合い」「輪を作ろう」。そして、「心を一つに」。